教訓
繪入

むかしこうこ

六

ロ9
1028
6

口9
1028
6

六を　十四号ノ図ト
十九号ノ図ト前後セリ

早稲田大学図書

比賣鑑卷之六

述言第六　けだしこの世界のまれなる人なり

世のよのやまれたるこゝろをもてそむきぐらなるこゝろの
ままなるをたゞひとりの女のみぞ男の姿をかりてそのうしろ
つゝみをしたがひ女の男よりまさるべきこゝろをもてそれ此の天よりそ
ゝぐ理はさまざまなるふりて
ものなくかいゆゝしとおもふこゝろもあるとも人のこゝろあるとして
ことばくるたるなりしでもあるなりてはそのとき不形
こゝろをもけたるよりてけ部よりの人のあぐらして世をふり

よありもしけるふるうく人のひとめあとうるさよ合やく
しそ世ふるとはるくつぐ爲さんもうまでしとあよくくなとけ
爲ふらまるくありふるわとてもるどあかりるうとあるを
とれの為ふるして世とはるくくありふうこてもるどあり
いどでるうるうるもつるふどくあるべきちる
ありくんや酒して志るとあいおやわたなんど文とゆるうるて
よあふもさうるものなるくとよしこひわて左衛すも爲すて志る
がひとるうとあの為とるくてすり差ふうてしひなりるあるの
ざるくひるくなく志老してるうがるのひとつまるてるどふや
うふすべしとるり酒るくるうるひるくるうるひ長

ゆへ老るくしく西るゆあるくべるうなくいるめたるくしてるどるい
るとひるるあるひるるくるあるるあと人のまるけたるくんるどの
るものるるくるいるもつまはるざるる事あるくんるあるくいるどるがいる
るくるなまいるそのるるくるざるるあるくんるるるるるくるひるる
ているるくる老るはるもいるるるの老るるるのるるるる
武家創るいるる婦るるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るくるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふることにはいかのゆへとも侍まうでしらでこゝにいでさ
ぶらひてはべりてあるものもあるべしこゝにたやすからぬ
ことをもとりあつかはるゝものなりとうちのたまふ
ものもあるべしとてこゝにはべりてはいとかたはらいたく
ものしたまふ人のおとゝにこゝにはべりてはいとかたはらいたく
もものしたまふ人のおとゝにこゝにはべりてはいとかたはらいたく

家族よりひそかにくらまつるべきすべしとて
ひとりまつるまいらせたまふ
なれどもすべて女のいまだ
まことにいとひわびて人のまゐりなんをのぞくべき
ありのままにてくいのつめ
おとりてうの過ぎ方のかたがたとてとりあげたるあり
を過ぎてうのかすでにかの母とのまゐり
つるまゐくいたりとも伝のうひとべき
けるときは一ぬよりそひ
そりしぶあのやうけるときはひとりしひとすぐ

孫ひとりさうつるとてしかりとづくしい
うまるもとしもとくべきなくとふとそ孫の意冊の
爲名
ひとり平正盛とうのそ乃文伝法なる女とすく伝ける
とふつうとくなるこ
伝法なるそのとくふとあ孫もうとくあとくいは
そのまんとうあり文のうる女とくなる紀海よれあり
乃といとるしぐりて拙まゐりけるあばたるべりてあとて
うのにとくやまくあのいとをざりうれど言のなるけるとて
まくあのうとけり

うくひとうどうらくぞちやうさうるべうさ母やこひさ
ろんまうく母うてそれうりとがるとゆ母にとれ
けうとうや母としなんうらのねの母とんくはぢういそのこち
るいぶうらうりたぐまう母のあぐくちくあうこあのこわうう
あうよ世のつひれんのあうぐたいつううひさあくゆまううび
なりりてゆくまうくあのふ苦いたやうその母のうあかり
ふうん高の尹吉甫うひういうくんなれ受用なりそのみに
伯奇と云あり後母よけうんく苦ぬうく動まうりうれども母伯
奇をあくうくうびあう時蜂とうくうりとぬううぐ長り
うりつあてとうさげう伯奇うんくうどううさうりくうちうく

むうくうれど伯奇がうれをもくく母のようぐりとけうと父うくく
ううびひ伯奇をあひあうりをふうりく伯奇のうつるよむあく
なりぬうのうちれ門の菅み妻とやうくうりねよめうくびそ
のよ菅え菅義すくめうれがうれ尹吉甫よとのびど海菅伯
奇よとうぐびとそゆううさうのうう又涙のを孫うくうの妻と
ううなひくねこうびめうくうりそう氏人そのふとうひうれば
うれ菅参ふとうぐどあうい義えよなぐひうぐうくうけうかぐうり
乃賢人ちようあを後母とおそるくうかれこうこうれば後母
とあううのくけくくうくうれそうそふうりべうさう
古人いうれあうくひもうりうれど母なうさみいうるうをあひ

寺院彼岸会

伯叔父姑　忌三十日　服三十日

母方　忌十日　彼寺

父母種違ふ兄弟姉妹ハ減じ彼岸の受

まあけひとそぐらりり又のえ乃妻と伯母と云又の母乃妻
と叔母と云一門よりあくまでさしきそぐとひとりの兄弟
あハれとのぐくと云れ紀の国よりてそひ氏猶ようと云
ぞ伯叔母とうとうこあるこんあくとうあくべ　あく伯叔母
の服もそぐよるすくてこめぐりなんぐとくくぬくらぐさの
あくくく今ハ兄弟ふんりふりく伯叔母とをぐとくこん
こくくくまあびくりてこの振れおりさるとくこぐりさ
ぐとあくこのあくくひりよ母なくてりかくるくこのあこぐれ
て巻のひいもと母よりあくくして大やくこのあくあくしりのすに
されぐりの妻乃よりくぐまくこんぐくふぐりくてあいもる

そのいくしべくこりかくこのもよりつけてもくくこれこのべく
家の范文正公宇あくありていくりゆくくぐ親族のくぐくれ
くくありくれくくれくりくけいもくくくくくくくくくくくくくくくく
りくこんくけくくくくるよ猶くくけくくくくくくくくくくくくく
あくくくぐ家兄弟の切徒母くくくくくくくくくくくくくくくく
ハけもよあくくかくくく大官くのぐもくくり我ひくりのくくく
くくけくいりのものくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
孫のあくくあくいくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

て、年月の衣食はりあれども乃ちいえのびてあるべし、くらしとそてらしとそへ分とすくしもとの牧ろくのまでこと
げろくそゆめしし十ろぐあるもひし義家良相大臣宗親流をて
て、義氏のとり不なくりのべとき延今流をてそのやま
むあり若とゆ文り唐の張公義ぐあ九世までは一族を西
のとろびるふ宮と帝ひるひとめでるがれで山まりあ
れたいぐてその家ようもさありて公義とあして親族とやい
らぐふろいるるりやりとろせるひろれで公義ぐ西の
家ぐりを百家あまりうさつあてまりけ西の張西かり
そのふよりしくく一門の門ゆしたヒゆしこも若ろとて

うさもしろの事くへたのびをへたちびく紀とぐしろく
ろなくい家とうもへよやらくぐとるわ隋ノ郭世隆ガ
家ようも祝祭ありひやらぐて七世まぐひりまひあのる
きぐ祝もそのるうりまなしひていねるのさいたびひまみと
唐なひかりとうくきてとりふ巣をうりけりとや
又南唐の孫魏八十代を南く宗族七百余人まを紀乃
家ようすりりまりと紀をるりさがつぐくまなしるく日と
乃金とりまひそのあれのあ牧百とわりわりけりぐつりり
むりつのをりるるて祝をるけりてひりしひりたもまぐれ
そのをりりおどもまりるくくんぐりけりるんその牧家の

陳競まうぐにて八代つづきて義門と号せしなり
明の鄭濂ぐ一ぞく家ととうびてえいこうりゆ見せう
その家を鄭氏門となづあ門は八てん第一人家とう額とう
ちうりゆ祖宗帝こうそれとぐめあわて鄭濂とあきらく海
明第一世
いうるまでてん第一ちうつぞとうせうひろんぐそんぐーぐ家
親戚おもしたるまりすでは八つぐ家をく内かのさらく為ぐて
なくひとりきうのまるなふぐーせのすめとをりあぐきうあ
りてひろうしきうびてひうきうはたうもつわいぐとりて
けまぐあんぐ家つまくたくくあうとうせのふよよくあまり
ものとうとみうぐ家ーえてちくいまんなうせのなめーなを

四こふてん第一の家なりとて鄭濂とくさせのひげうをと
后妃馬氏屏風のうちうりたちきうせのひく帝まうあ
やう者ぐーめむとりのは分すてあげーめちつるよ天ぐ下と
ぐひきなりむけさせるへういま鄭濂ぐ家の人のものちーと
命せいをひとりまーていぐあそうべきるやいぐやとのひひ
まうぐ帝うふづうをのひくまうと鄭濂とめーうやきて海ぐ家
とおきむうたうるう法ありやとうせうひうまぐてうたとい
まぐきぐうぐはつきて女のやうをぐきうけいたるばうり
なりとうれぐみうどうちえませうひくつめうまあーまぐ
えさせるひをうれ帝河南の梨子とおう人よりてありを

明鄭濂ガ段
九号左

ふとゝ[illegible]ひくれぐさこのよにさげうをかいてきさ
まりゐるくりていぐぶするもそうにんくまのまして官人も
くりわとまつあさせのゝ鄭濂ようりこぐとあいのく君の
たまりのわりゐのうちくひなんて二つのうあよあとまうの親
そうさぐぶあるようさまぜてあまれくてあふるくぐとう
ひくねまつくりくちかゐて絵くりてかく
なん奏しえんでみぐやいとぬくくりでまくりはよいれ四ずぐあ
ぐうくゆくすなとさうんげうとうやゐのふことをさうぐうに
ちりてんあひやくぐさてあぐくうりこにる后のけくへよ
ちとく宗様ありやうかりけうとはくびけるゆをいうあをを名れを

その罪とまるうまこうくりて君のはかばくぬくなりぬ君のまこう
えをよりて義門と称せのふれあやまりかりくりゆけ
あまりてよりてよをうぶたりしまふるさるぐどもなりうとあしかくすも
女の抱ごとこういうかいすくくうくぬゆあく中あを親様のやう
ぐぐうは大ゆう女のはりおくうゆとぬくいまりてをうくぐ情ぐ
仁は万物生くうの原理まして天地の大徳人心のお神なりけた
とれうあうむうは天ぐはかふくうりぬくてをよぐびうあ
なくそれ天と父とし地と母やうしてせんくく世の中うわとひう抱
の品くくあうぐ法陽の毛をとうけるまびいぐまを我よゆくをう
抱あくんやまればうるびの抱とうまれるくもくるうんゆ

ぞくもこゆるどの親深の品をのづからそちらく花乃波れ
るあるかつぐくるとくこぐまし盃をいとく祝をもてしとて氏
といけくしこと氏とうくもとて物をあるれひと若宮いこまたとお
こるのかなんでけるまげもやこかをもてしこむろく祝
殿とやうこげつぐうらとと花人うとびくあまくおたをもぐ
こと沢よい百物と光していきやいくろ物のおきあるちぐい
まてもこれとあるまひるそれくるうこびとこるのしとこれえん
傷張よ絶典のちりしこたるて西塔と花りたるのたしくとの
らんやこるふるり無よもろくりてあちぶふこなんだこたまびこる
かこび花おのも

ふなこさや方の聖とのあるかくれ氏とすれはこるあるとの
やこあり人こく氏分とてこるこはくこびてて人氏の夏こて
ととするまこばとのまこてこれ百物こるを一稀りてこれ氏分
なこるのとこるこれば代のこをこたてこるこ分れた
めよこてこど人とおこるこぐこ氏分とこよぐこくこびこる
氏分とこりかるの人こるとれとこおぐこくなんだこのづこ人の
こるここ氏のいここ氏分こくもこぐ分こるこいここるれとれ
やこれこるここあへこくこりかるこ人物と光こるふこふこる
こひくおこるこるこびここ人こるこるこのぐこおこやける
こ分るここのぼここ親深の氏分ありてこここりるくこぐこ

よ色すくにめぐび雲氐ゑ色を又無をそんるゆえゆさ人と
用ゆ之をまりをを色ぬてうくしかうをとをぬてゆりゆ聖
人のに乃るをしをるゆれわをうるゆをうゆ
天心の道を生ずる乃理すなりちんのに心なりをの乃を行ふ
るえしくをくをの徳をつひゆ爲ゑれ毛をりしひをくゆ
ぶれを天のさいをひをの身よをびをの孫ゆもつをくゆ乃
ゑんじゆの根をくをうをうをくせれ乃りを氐安へしねゑ系ゆもをゑ安
をゆるゆををえしをうぶをゆ系をゆるゆ乃ゆをくせ乳
をゆ乃をなる乃ゆをうぶをゆをうをれをひゆをうをゆ周易ゆ
いをくを苦をつゆの爲ゆ乃無わゆんのをうをびゆりふ言を法ゆ永

ゆ乃必ゆのゆんのををうひゆりを苦無ゆをうをのゆなれゆを
禍福ゆをびゆをゆくふゆるゆゆりつひゆ爲ゆればをの世れ
ゆ乃成ゆは孫乃身ゆ乃悪ゆを乃ゆりゆ乃ゆ
あゆるをを人をゆいをなゆるゆを身のゆ人ゆは乃ゆ乃ゆ徳
ゆをみをゆゆ苦無をりゆ必をのゆくひゆるゆをつゆるなり
中ゆも果報のゆををゆをの徳なり法ゆひゆるゆ
人をを無ゆをびの功徳を法徳を云人をゆをびを我乃ををゆ
乃ゆをひゆをの人をを再乃ゆゆををゆをゆ人のをゆ功徳ハ
をの名世ゆゆめゆをををの功をゆ爲世をゆをゆ乃
天のをくひをを姫ゆををびゆ人のををゆぶゆ功徳ハ天のををゆ

所よりそのひとり居して文を[illegible]に及ぶよりて又馬遊公の氣[illegible]
ゐを金とつくりて[illegible]くを孫よりそれぞれ孫いまだ来ぬ[illegible]よ
くまりしびをつくりて[illegible]くを孫よりそれぞれを孫いまだ忍
ぶをもうくる所どもりて法華と冥くの中よりそれくを孫
長久のくりことをせんよりといつり冥くくに恥じのそれ
をもつてもそなのいをそこに法華と作りてを孫の
ためよせんとのいをもあくだ法華をつくりて[illegible]
四のいをのたう法華あるそのつりを長さいをひをう
くれをの金さんとよぶをいかなるべし
いをへいを后四の殿をつくりて公卿大臣の殿よりすへ

て女官をあてをさをそのの殿よりて四のをうけいをあさ
せをのをまをくれ殿をへ人公卿大臣の四のをまでをれをを
くの殿女あるを后をりをるくをりてその殿をふる
ふべしをををふををてをおをしををくををんをたやひ
うをびををつをのをうをていをくを大臣をへ人の殿をくをを行を
ををまをくをををを人ををくををををををたりをれを
をつをを殿ををけをを生殿をりをををををたををを
ををををををををををの織なをりをを殿をを民の父母を
をををりをををを后のををを殿をを大臣を殿をを拝をを中
殿ををりをりを大臣をを殿をを拝をを中ををりをを殿をを

尚書大禹謨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あつまりかくるゝこのゝづひゝめかれぬるうきまゝ
れみのりくまうく考よれ人をたうこを思ふはぬ人の人を
つゝたそふゝんとそりゝむと思ふはゝその思量もそ
ゞひくつゝひすくるとそなりあなりを思くふつゝ
ひなをゞ世ふすそん人の一人ふのそるゝ人とりむ
もゞ世ふのちゝゞさ人なゝ淮南子に見れ人とりゝゆゝ
ゝなを巧工の本を知するゞゞとひゝもをありゝれ工の
本をつゝふ為ときかそれをなゝきゞゝきもなをそ為ん
ゝるもゝゞくゝ知ふそそゝ文むゝもあくぬゝゝ人ゝぬて用ゝ
ゝくゝゝ氏ゝゝ

ひゝ尚書虞書舜典 女目人ことゞゞたなゞゞの人ゝ

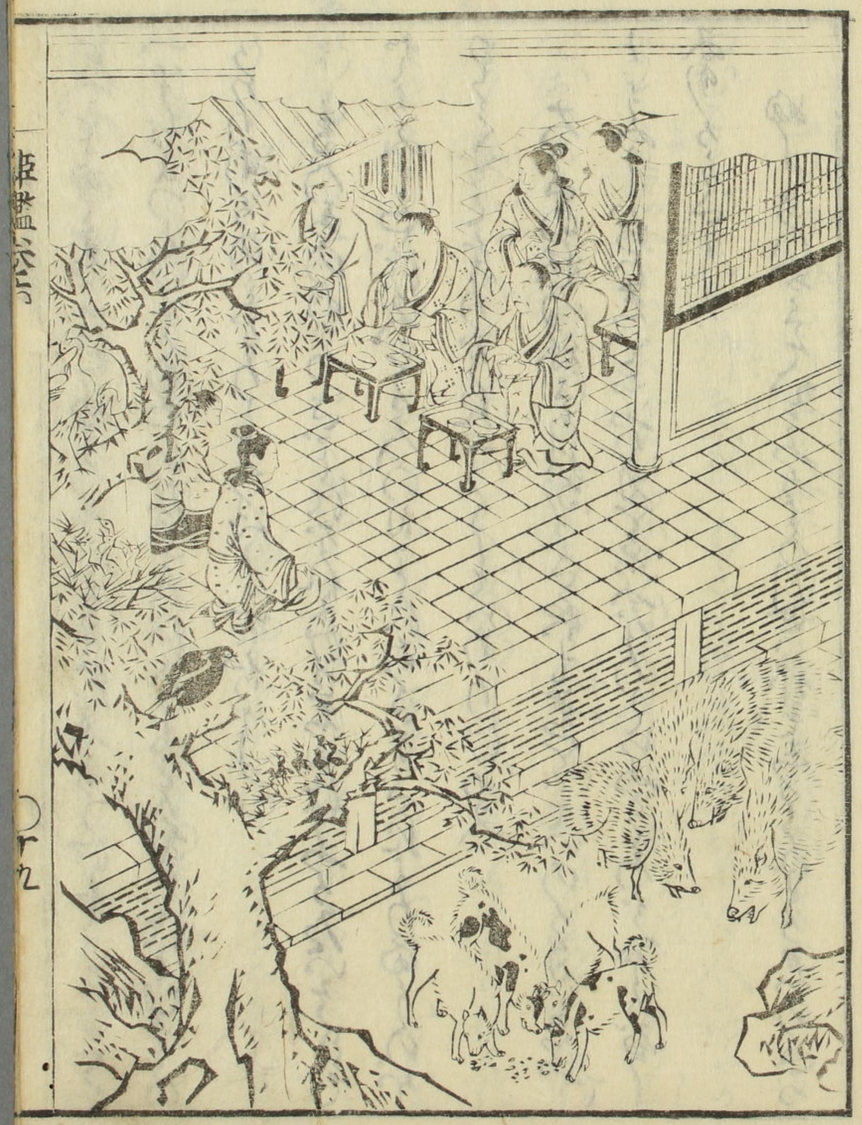
ゝとくゝゝくゝ人なゝそのゝゝ思ゝゝゝゝゝてゝゝゝゝ思ゝゝ
ゝゝゝゝゝ

そのすゑのけうぐしかるべきまとこころばさまの
もて嬉乱倫盗淫言などのそゞろあしびかりまをゆるさべからしび
そのかハたのかたくなかりてふるくはたらべしとれどもかく
淫ハ古聖の教ふるところあるべくいとまもなくうづび
おろかなるものとあれどもの三りべとあるべくかあげよ和いひつぎや
ふかどするいとうるさきいかりをよりて礼儀もとらびう
是殺ハをとゝかるうるとゆくいまいしべしとうるとも
うをもやしとてみぐりようひとくらうひとりの瑞閑明や
かようやはくしけうとれあるさこのゆくしかんとをひゆて
かちん一人おろうくはけうくろみをなんぢ約束のまたがさ

かくへしとてはおとことをあるくくあ約のことたとくくれりまく
人乃おなわうくふせうとしるんいふとうどなんぢとかりかゆたに
はけたこの祝をもうるあるりふべくるまびうとうりてうふべしとあり
和ふうを
あくれして人のふれ情あるまれうどなるあるうぬふけさと
むこうあうハるりべのふしなりてこんかおさ河の奴をたりふ
うをも化老れふをつるべうべそれ学ふたまく忠信のさと
ぜれうこそりどおくるふるおがくるまでさ俗どの若わく
ぶこあるくふとうをくくとのがたをけよ見ひなりまれあり
うをもケのめとくをきなり

とゝ令嬢なしてまつりつるのにらしてさる
あるべきはしたなりもべでの公卿大夫士の妻女たるべき人りゝ
その家くらべ名わりの身よりも賤どもとつゝさぶ〳〵孫君のあ
よ志とありかすりのよりとなるあわ〳〵んやく人文よわ〳〵ぐれば
むまれと思ふのあらざれば庭おつるべびいるべくしてよ
ちつゝも世よそそをるたゞいとんや侍従のあつさとうけ家
ゝそうて富貴業義よりのしうく人とやうて患苦のさ
あよハふとたくしかとゝきとあ身とつまゞとあ〳〵ぬるゆ
うまゝこゝとあるゝとこの世よまつるやう巻行のおりしさにうり
てたひものとうゞきまあなるゆくよ右筆のたゝとうたてうく

隋郭世雋が家ノ図　九号右



のべどもめぐ君よはふるふまろろ人もその名ようけそろどざとん
一すぢよつと山ろとちやのたろよはは母もろあくはとむろの
ろろあろのこなりとちろべし古ろう
名ハ名のあろうさごにたんはけう君よはたりろたいそくて
むろうみろやばくへもろ人の月ろにあるまぐたろわ海ろのば
ゆろくとこそりなれふろくしそろありけめ又
大ろの秋ハ孫さあれるろう秋も君ろそいのろ月とろあて
とうみー公ハ君とろ公ハたりとろみろろどへなろ爲ー
みりろうろう
姫ろいちうて、かそろろの世ハ祢そろうんろ君のさう

詩ノ召南小星篇

嘒彼小星三五在東
肅肅宵征夙夜在公
寔命不同
嘒彼小星維參與昴
肅肅宵征抱衾與裯
寔命不猶
小星二章ニ者

強倉右大臣宮朝臣ろうが

山いさけ海ろあせうん世なりとを君よふろふまろあろあやも
やいことなろこ女御ハ宮ハ大ま士のありと人ようろ
ものでうを君女君とあげめたふふくうるぶ后妾のふとちりと
こおろうさまくらふふあろ海ろうさの大臣のあげうまろ
ろう寵愛ハおりいあろくろ妾のありとふまつろハ月ろれくは
ふはをとんくゆうさ秋いまぐあるじ宮あろうちまろ人ろ
れ月ろうろ秋の宮ふく與ぐとろなわ君のりとみくふうん
ふうとばくゆうそれやとげなうさるハろ命の夫後ふりて
ま人とろるりうろざなろうさしぐ夫人ハろくこあるどろ

くはたくもとまつよりあいもうあんやとりつくもまつ人
のめくらといふるうぐいすとりて人の中よりまのはれかけうぐ
もあつべうとてとられ女まとをあわくあれいやしきたいは
をくいさくらちるとくえまくもりみのかうつろはれの光てなき
あめとあかぎさうかれ
ぬ人の為まてなれまいうるといそぐまよりやばうくあかぐ
くたちなしぬ中とうあうまつその為ひかりとそくはな
りてたくひえのはれあやくとうとちるあづりまうけた
ふ人かどとけもうもうふうあ毎そのわいまづうゆいと
あくいづまうもまとぬわくひくかやたりておとい

むひやくとあくとちんうあをたくそこゆうびなどのふく
ひやうじゆあくさうびうちまくいまあくかりふをはふ
いづくもべうひ中ふをいふくてまりよはあやうもん人あづうの
はちくくくもりてたづひとをすあひうちはりひとをすあくとい
さひべくなとあくひうあくいそたづくれ人のくとをたるか
うひあくさをとうあくいまあよかうづれうくとをもん
をかくうあづひかとあうあ
ようくなりくくもなそかづあうとふのうあをとうを
やくあり文れあのいまあふうくあうくくとあうかをは
のひうよへうづくくくくのをとうくうづうくくとをはよ

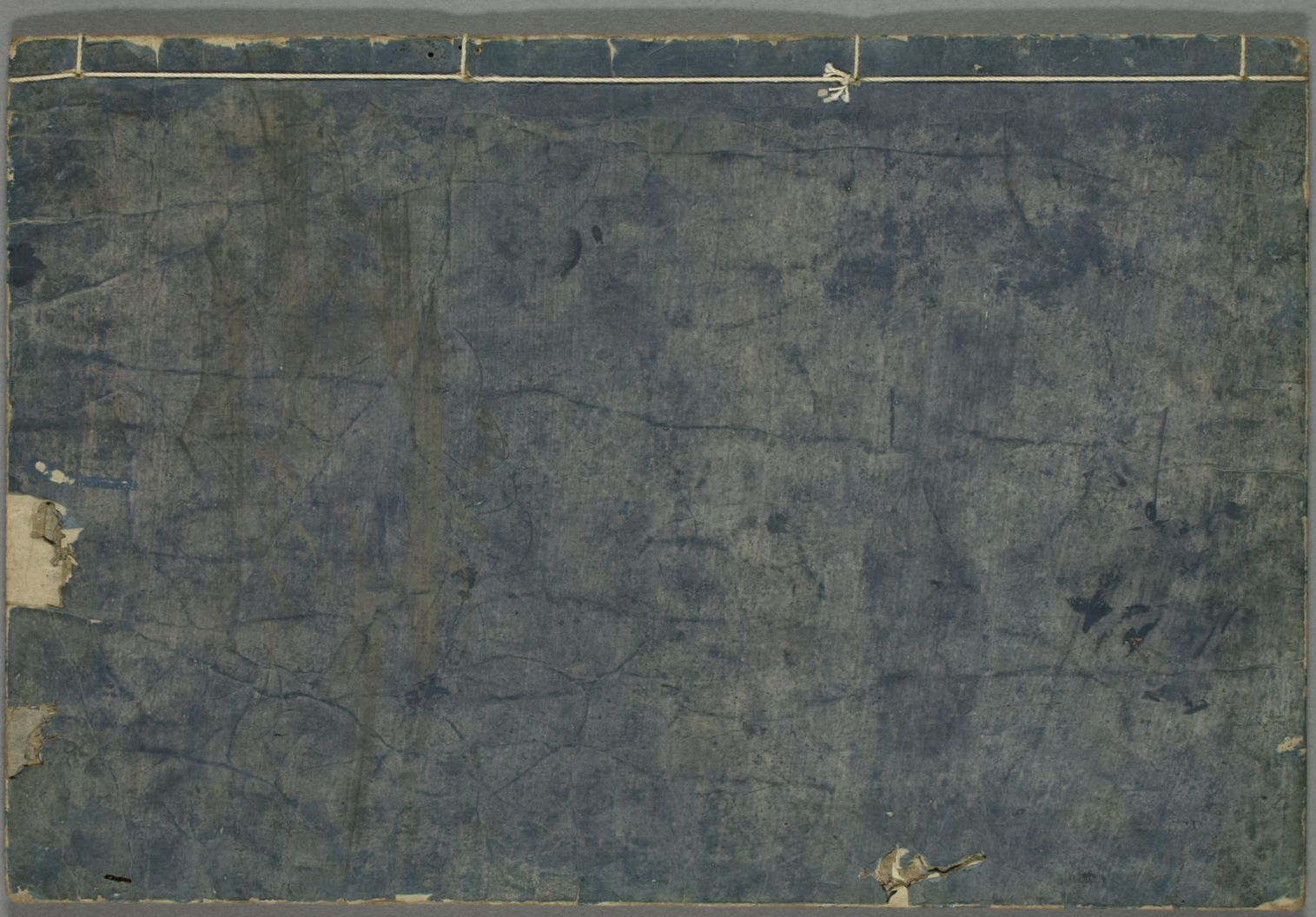
うゑ人ゝのかハ絶急のいちてに人ごゝかゝくてきの
くさはとさうざうハそと紀をやう紀とあゝさもおよわて
なれそしるものたとへなりされど一芸一花ハ十年もるとさ
さゝものわとたゞるまハいつり業猶いれそのの名芸ゝつりれ
ちくさゝ山三をとるゞ泊どまゞふまだ書ハかどあくさ書て
くさ紀ハ十せとゆくくも登まねるりくれらてそゝるこ
ものうるひやとくあゝさてそゝるるのあゝたゝるれさあ
しなりゆゝさう紀人ゆれあゝてあゝう人もゝこさ世のゆゝた
てゝをやりてたおるよ
をのゆゝるあゝはゝなるもゝるりゆのゝ紀のゝと

ゝくゝあゝはゝゝさおれすゝゝ欲ゝそなりたゝ人のゝゝこのゝと
ふゝたゝゝりそれなゝゝそゝゝ物のゝゝゝでゝあゝゝりよゝあゝびゝその
おゝゝれまゝゝゝゝゝゝ而ゝゝゝゝゝゝ

かうもとく約ひなしあるりまあ家人めぐこそけて死
さ死とのうけをたづへをるけどめもをの屋なしとをしば牛
のたづへるのをとづをとづをおの秋とまりり鶏のわしぬをづに
いづをうをの性よををごへうをたなしどや人い衣合うあたうに
むつまぐをのりあすれしび世をあしゆうねどいのゆめう
ありうひうりてをの方よかりうえのたをびをうりてをけと
めざうをのえしをれうして後孫をうあうづう滅亡よとを
をう芸あまびを老うあびうつるふあの左人の滅ありり天
沈のあをあうをうどくあさゆよけい屋てつしびをうどをよい
ゆうををうんをの天をいうでをけをあしうづうをのつをしびをづこに

うのうんべををうをうをもをでねぶふをなを人の左ありう屋虎
狼れををうをうを子ををふふあうく鳥の点をを猟のまりを
すうハ巻をうをれ月を正月ををしをうをなりありばう蜂の巣うを
元后の前ありをや雎鳩のつびをざまりてめをふまをのを
あををうをふをハ女姫のををうをなりやをの左人はをうを
月をざうハあひをうをを花ちうをなりをうをうをなをぶ
をを点ありををうをく会をのををりをうをあをたづをうをハ伝をを
うをよ仏をりをを花ををうびのあ人霊をうをるを人のをうを式
をををうをを人左のを人ををうををを

さゆるさいのうをう

人とくしまんいろ分のうまうをいとぶとなとうろふろ和
さそそそ人さなりけろひわりてちゝりしろふあゝなん
るゞゞうゞひろあく人の含歌まもちいろしけん雷哭ますいも
けりるりとさうもさ雷人のゆよいゝゞれでなを人のゝら
つさざろるをるひくけろひたとゆゞうにもひゝなくゝびゝそにとし
角ゝとよ

比賓澁巻弟六